

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3610123667		
法人名	医療法人 道志社		
事業所名	グループホーム大神子		
所在地	徳島市大原町大神子22番地1		
自己評価作成日	平成22年9月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3610123667&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成22年11月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の近隣には、日の峰大神子広域公園があるなど、自然に恵まれた環境に位置している。利用者は、季節の草花を眺めながら、玄関前の長椅子に座って雑談やゲーム等を楽しんでいる。お弁当や飲み物を持って公園や海岸へ行き、野外食や季節を楽しんでいる。海岸の売店で、地域の方と談笑したり、他事業所への行き来も利用者の楽しみのひとつとなっている。テレビ体操やリハビリ体操、カラオケを行っている。新しく設けた喫茶コーナーは、利用者の憩いの場となっている。母体法人の医療機関が併設しているため、緊急時にはすぐに対応でき、利用者や家族、職員の安心につながっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所前の公園は、手すりのついた細道が山頂まで続き、リハビリや散歩コースとなっている。公園で季節感溢れる野外食やカラオケをして、利用者の楽しみのひとつになっている。地域の清掃活動に参加したり、大神子海岸への散歩時には空缶拾いをするなどしており、近隣の方とも顔馴染みになっている。隣接の医療機関の作業療法士や言語聴覚士等の協力のもと、リハビリ体操や小作品作り、誤嚥防止訓練などを行っており、利用者に応じた支援に取り組んでいる。管理者は、認知症への理解を深めるための地域活動にも意欲的に取り組んでいる。全職員が、積極的に各種研修への参加や実践を積むことで、さらに資質の向上を図ることを目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に理念を唱和し、再認識している。地域とより良い関係を築けるよう、管理者や職員は理念の実践につなげている。	全職員が「これからもずっと自分らしく暮らしていけるためのお手伝い」という理念を実現させるために、利用者の思いに寄りそって見守りながら支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	野外食や散歩などの外出時に地域の方に積極的に声をかけるよう努めている。また、事業所の行事などへの参加を呼びかけて、交流を図っている。	地域の祭りや清掃活動に参加したり、散歩時に声をかけ合うなど、地域の方と顔なじみの関係を築いている。運営推進会議では、地域の情報を収集したり、事業所の行事へ積極的な参加を呼びかけるなどし、地域住民との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、認知症について話し合い、理解を深めている。毎月、利用者の俳句を新聞広告に掲載して地域の方に知ってもらえるよう働きかけている。また、天気の良い日は海岸までの道のりのゴミ拾いをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催している。参加者から率直な意見を出してもらい、職員間で共有してサービスの質の向上に活かしている。	年6回、運営推進会議を開催している。現況報告や毎回提供される時事的な議題について活発に討議している。議事を記録し、職員間で協議して実践に向けて取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入退居状況の報告や介護認定等の更新手続き、運営推進会議の報告、ホーム便り等で事業所の取り組みを積極的に伝え、協力関係を築くよう努めている。	定期的に行う現況報告時等に、事業所の現状や課題について話し合っている。相談事例等が発生した時には協議できるような体制を整え、地域包括支援センターとの関わりを持っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束をしないケアを徹底し、実践している。一人ひとりの行動状態を把握し、声かけや見守りをして安心した生活を送れるよう取り組んでいる。	職員は、身体拘束の内容とその弊害を理解し、コミュニケーションの充実とさり気ない見守りに努めるなど、安全で自由な暮らしを支援している。日中、玄関は開錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の接遇研修や介護課会へ参加し、学習の機会を持って虐待防止を徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を設けている。研修等で学んだことを運営推進会議で話し合い、全職員で勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約時は、家族の気持ちを把握し、十分話し合う時間を設けて不安を軽減できるよう相談にのっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪や行事の時に声をかけ、気軽に話してもらえるような雰囲気をつくり、意見や要望を聞いている。年1回、アンケートを実施して意見を聞くようにしている。玄関に意見箱を設置したり運営推進会議へ参加してもらっている。	日ごろの関わりの中で利用者の思いを把握するよう努めている。家族の意向は、来訪時やアンケートで把握し、出された意見や要望に迅速に対応するように努めている。玄関に意見箱を設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議等を開き、定期的に話し合う機会を設けている。個別相談に応じるなどして職員の意見や提案を運営に反映させている。	定期的開催する全体会議や朝礼時に、職員の意見や提案を聞いている。日ごろからコミュニケーションを図り、職員の気づきを運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況や勤務実績を把握して、研修会への参加や資格取得を促進して向上心を持って働ける環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修には、職員の段階に応じて受講できるよう努めている。受講後、事業所内で勉強会を行って職員間で内容を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会等の研修や勉強会に参加している。また、意見交換や相互評価に参加して交流を深め、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状況や本人が求めていることの把握に努め、本人をよく知り、信頼関係をつくっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者や家族と面談し、困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けて信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等が必要としている支援を見極め、本人に合った他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を一緒に過ごし、洗濯や食器洗いをともに行き、昔のことや知恵を聞きながら共感し合っるとともに暮らしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来訪時や電話、毎月のホーム便りで利用者の状況を詳しく知らせている。アンケートを実施し、ともに本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同じ職場で働いていた方や知人が来訪し、居室で会話を楽しんでいる。気軽に来訪してもらえるよう配慮している。	電話をかけたたり、手作りのハガキや年賀状暑中見舞いを出せるように支援している。懐かしい場所へ路線バスで出かけることもある。馴染みの方が気軽に来訪してもらえるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リハビリ体操やテレビ体操を利用者に合った動きで行い、一人ひとりが孤立せず支え合えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設する医療機関に入院した方の面会に行っている。本人や家族に状況を聞いたり手紙や葉書を出してこれまでの関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意見や日ごろの何気ない会話の中から意向を把握している。家族の協力を得て、昔の趣味や好物等を聞き、希望や本人本位の暮らしができるよう職員間で話し合っている。	希望や要望を表出する機会の少ない方に対して、日ごろの会話や表情から読み取ったり、家族や関係者からの情報をもとに思いや意向の把握に努め、本人本位に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の協力を得て、基本情報シートを作成している。また、利用者との会話の中で生活歴を把握し、一人ひとりに合ったサービスの質の向上に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムや本人のペースを把握し、心身状態をみながら有する力を十分に発揮できるよう努めている。センター方式基本情報シートを活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見を取り入れ、職員間で話し合って気づきやアイデアを出し合っている。3か月ごとにカンファレンスを行い、随時見直している。	本人や家族、関係者の意見をもとに、利用者の力を十分に発揮できるよう検討している。3か月ごとにカンファレンスを行っている。また、状況の変化に応じて随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日ごろの様子を個人介護記録に記録している。朝礼やミニカンファレンスを行い、職員の気づき等を全職員が共有・実践して介護計画に見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一法人の作業療法士による小作品の作り方の指導や言語聴覚士による誤嚥を防ぐための毎食事前の口の指導を受けている。通院や外出、外泊等は本人や家族の状況、要望にそって支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市役所や警察署、消防署と連携を図っている、また、運営委員会等を通じて一人ひとりが心身ともに安全で豊かな暮らしが送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設する医療機関を定期的に受診している。また、本人や家族の希望する医療を受けられるよう家族や職員が付き添っている。	利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診や併設医療機関の定期的な受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であり、日常的な健康管理や医療面での相談、対応を行っている。職員は表情や気づきを見逃さないように、早期発見に取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が頻繁にお見舞いに行き、状態を確認している。医師や看護師と情報交換を行い、家族に詳細を伝えて不安を軽減できるよう心がけている。馴染みの利用者や職員がお見舞いに行くこともある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や看取り介護について、家族と話し合い、併設する医療機関とも相談して検討している。	入居時に、重度化した場合や終末期についての対応を確認している。状況変化に応じて家族や主治医と連携をとりながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修に参加したり勉強会を定期的実施して急変や事故発生時に備えている。また、併設する医療機関の看護師の指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、避難訓練を利用者とともにやっている。また、運営推進会議で議題として取り上げ、地域の方に協力をお願いしている。母体法人の医療機関や事業所で消防署の指導により防災訓練をしている。	毎月、日中・夜間を想定して、出火場所を変えて避難誘導訓練を実施している。年1回、消防署の指導のもと併設事業所と合同で訓練を行い、地域の方と協力体制を築いている。災害時用の物品は法人内で備蓄されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーを尊重し、高齢者に対する尊厳の気持ちを大切にしている。日ごろのケアの中で馴れ合いにならないよう、一人ひとりに合ったケアを行っている。	職員は、プライバシーの重要性を理解し、利用者一人ひとりの尊厳を大切にした対応に努めている。本人の気持ちを大切に、さり気ない見守りや言葉かけで一人ひとりに応じた支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家族の来訪や買い物、散歩等、利用者の希望にそって随時、対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせて食事や入浴を支援している。また、その日その時の体調に合わせた柔軟な支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の自己決定を優先し、その人らしく身だしなみやおしゃれができるよう支援している。理美容に関しても本人の希望を聞き、家族の協力を得ている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で収穫した野菜を利用者とともに選別したり、材料を切ったり片付けをする等、一人ひとりの力を活かしている。	日ごろから、利用者と職員と一緒に料理を作っている。作った料理を、公園や海岸で食べることもある。利用者同士や職員は、互いに気遣いながら和やかな雰囲気ですべてを食事をしている。菜園で採れた季節の野菜が食卓にのぼることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病院献立表を参考にし、バランスを考えながら献立を作成している。季節の野菜を取り入れたり利用者の要望を聞いている。毎日の水分・食事量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月1回、歯科衛生士の指導を受け、一人ひとりの状態に応じた支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない言葉かけや誘導を行って気持ちよく過ごせるよう支援している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しさりげない声かけや誘導をすることで、排泄の自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食品を提供している。リハビリ体操や散歩に出かけるなどして身体を動かすよう心がけている。水分を多く摂るようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に合わせてシャワー浴をしたり、気の合う利用者同士で入浴を楽しんでもらえるよう支援している。また、転倒等に配慮して、安心して入浴できるように支援している。	本人の希望を大切に支援している。気の合う利用者と一緒に入浴を楽しんでもらったり、声かけのタイミングに留意するなど、その日の気分にそって入浴をしてもらえるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リハビリやテレビ体操、散歩等を積極的に行い、身体を動かして足腰の強化に努めている。天気の良い日には、布団干しやリネン洗濯している。室温にも気を配り、快適に眠れるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎月、定期的に医療機関を受診し、薬の説明書で目的や用法等を確認している。状態の変化がある時は医師や看護師に相談し、対応している。そのつど家族に連絡を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の水やり、掃除、食事の後片付け等一人ひとりの能力を活かした役割を担ってもらい張り合いや喜びのある生活を送っていたけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ、買い物など一人ひとりのその日の希望にそって外出支援している。日ごろは車で出かける場所へ、バスを利用して買い物に出かけるなど、本人の希望にそえるよう工夫している。	日ごろから、近くの公園や海岸への散歩、買い物等に出かけている。季節の花見や行事、季節にそった外食や懐かしい場所へ行く等、個別に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望を聞いて、能力に応じて所持してもらっている。買い物に出かけた際には、自分で支払いをして喜びを感じてもらえるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節の花やちぎり絵を貼った葉書や暑中見舞い、年賀状を自筆で書いて出している。電話を取り継ぎ、家族と会話できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者とともに作成したぬり絵や折り紙を壁に掲示している。散歩時に摘んだ草花を食堂やトイレに飾っている。直射日光を避けるために簾を設置して、やさしい光が入るよう工夫している。	利用者は、料理の匂いが漂う、日当たりのよい食堂でくつろいでいる。季節の花や紅葉の山を眺めながら、玄関前の長椅子でボール遊びや会話を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1階にはリビング、2階には憩いの場を設け自由に出入りしてテレビを見たり談笑して楽しんでいる。玄関に長椅子を設置し、座ったままボール遊びなどのレクリエーションをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛着のある家具や置物、カレンダーを持ち込み、居心地よく過ごせるよう、家族と相談して工夫している。	家族の協力を得て、入居前の生活空間に配慮した環境整備を支援している。馴染みの備品や写真に囲まれた居室は、利用者にとって居心地のよい空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのできることやわかることを把握し、個々に合った支援を行っている。安全で自立した生活が送れるよう心がけている。		